

牛さんありがとう。大切につかいます。

淡路島に新たな価値を、淡路島のみんなと一緒に。



【 目 的 】

私たちは、淡路島の生産者によって大切に育てられた“淡路牛”や“淡路ビーフ”の皮、“農水産物の皮”を用いて、出来た皮革を「淡路島レザー」と名づけました。生産者さん、牛さん、作家さんの思いを丁寧に伝えていき、大切につかってもらえるように、革作家や農水産物の生産団体等で構成された淡路島レザー協議会が今年 6 月に発足致しました。

【 記者発表日 】：令和3年10月13日（水） 11：30～12：00

【 場 所 】：淡路家畜市場 兵庫県淡路市塩田新島 3-2

【 内 容 】：淡路島レザー協議会の設立発表及び淡路島レザー商品発表

【 会員メンバー 】：・soukita・Fkeys・L' ISOLETTA・淡路ビーフブランド化推進協議会
・Bartam・Fond leather works・Marubayashi・アトリエ KIKI
・Ci CRAFT

【 お問い合わせ 】

淡路島レザー協議会

代表 高原 悠

[TEL:080-1965-6260](tel:080-1965-6260)

Email: awajishima.eather@gmail.com

【 特 徴 】

「どこで、いつ、誰が」がわかる!?(トレサビリティ)

和牛には、商品の生産から消費までの過程を追跡できる「トレサビリティ」が存在しますが、革製品になるまでを管理することは中々できません。徹底した管理を行うことでその革製品が淡路島のどこで、いつ生まれて、誰が生産していたことを把握でき、生産する畜産農家と作製する作家をつなぐことができます。

貴重な和牛。さらに淡路島の和牛で(希少性)

財布や椅子など牛革は身近にありますが、その革が和牛というのはあまり見かけませんよね? それには、原料となる皮は世界各地から輸入されており、その数に比べると和牛は数も少なく、体が小さいことで素材として効率がよくないとされているからです。

また和牛の特徴は”霜降り”といわれるように肉全体にきめ細かく脂が含まれており、この脂が和牛の肉の部分だけでなく皮膚にも多く含まれていることから加工の技術が必要になります。

そのため、淡路島レザーの作製には時間が必要で数量には限りがあり、私たちは無駄なく大切に扱うように心がけています。

【 なせはじまった? 】

新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドの減少や飲食店の休業等で淡路島の畜産農家が生産する牛肉の需要も減少し、オンライン需要はあるものの、依然と比べると完全に回復していない現状です。その中、畜産農家が育てた牛をお肉にする際に「副産物」としてできる「皮」を「革」として活かし、淡路島に関わる作家とともに作品をつくっていくことで、淡路島の畜産業や作家への注目が集まり、淡路島の新しいブランドにすることが出来るのではないかとということで、島のブランド牛【淡路ビーフ】を推進する淡路ビーフブランド化推進協議会を中心に生産者や革作家の協力を経て淡路島レザーが生まれることとなりました。

▼完成した淡路島レザー。



【 淡路島レザーについて 】

淡路島レザーは「淡路牛」や「淡路ビーフ」に特定しません。牛だけの名前にしなかったのは、淡路島には牛以外にも畜産物、ジビエ、魚、たまねぎなど様々な「皮」があり、携わる方々がいらっしやいます。私たちは、島の「皮」に携わる人達が活動に賛同し、自由に参加頂ける形を目指したい。また、作家やアーティストの交流の場、皮の生産者と革の作家、そして使用頂ける方を「淡路島レザー」を通じて繋ぎ合わせたいという想いがあります。